

# 暮らしが変わる・社会が変わる アフターコロナのまちづくり

近畿大学総合社会学部教授 久 隆浩

## 1 時代の転換期

コロナ禍がなくても社会は変わっていく  
コロナ禍が変化を加速させた  
多くの人に価値観や行動の変容を促した

D. Bell(1973) “The Coming of Post-Industrial Society” 『脱工業社会の到来』  
A. Toffler(1970) “Future Shock” 『未来の衝撃』

近代 → ポスト近代  
工業社会 → 情報社会・ネットワーク社会

## 2 階層組織とネットワーク

(地域活動への)若い人の参加が少ない ← 活動の仕方が違う  
一方で、若い人びとの社会活動が活発化  
組織離れ ≠ 活動離れ

マミークリスタル  
ホンノワまちライブラリー  
Atelier NOANOR

## 3 協力社会

コロナ禍への対応  
私(市場経済): 水もの  
公(行政): スピード感が乏しい  
共(協力・支え合い)

共助の重要性 (例) IBAR EATS  
R. Solnit (2009) ”A Paradise built in Hell” 『災害ユートピア』

Y. Benkler(2011) “The Penguin and the Leviathan” 『協力がつくる社会—ペンギンとリヴァイアサン』

オペレーティングシステム(Operating System, OS)  
Windows, Mac OS, Android, iOS… 会社組織で開発  
Linux 世界中の技術者が、インターネットを通して協力し、ボランティアで開発

Wikipedia

トマス・ホブズ『リヴァイアサン』 (Leviathan) (1651)

人間は身勝手 → 万人の万人に対する闘争  
主権者に権利を預け、保障してもらう＝社会契約

アダム・スミス『国富論』 (1776)

(神の)見えざる手 (invisible hand)

各個人が利己的な行動を行なっても、市場において調整が働き、社会全体の利益をもたらす

システム	国家・行政システム	経済システム	協力システム
概要	監視と処罰を通じて利己的な人間行動を抑え制御する	市場を通じて利己性が共通の善に貢献するような行動をもたらす	コミュニケーションを通じて相互に理解し合い支え合う
行動媒体	権力	貨幣	個々人の自発性
行動規範	公共性	功利性	共感・関与
動機付け	ムチ(罰)	アメ(報酬)	自発性
想定する人間像	信用できない人	利己的な人	信頼できる人

#### 4 変わる都市計画

小林重敬(2008)『都市計画はどう変わるか』

都市づくりにかかわる3つの力

行政によるコントロールの力(規制)

民間企業によるマーケットの力(市場)

近隣社会によるコミュニティの力(協働)＝エリアマネジメント

権力・カネ・組織で社会を動かす → 共感・ネットワークで社会を動かす

市民が社会を動かす ← インターネットの普及

Mike Lydon , Anthony Garcia (2015) “Tactical Urbanism: Short-term Action for Long-term Change”

ニューヨーク・タイムズスクエア

デンマーク・コペンハーゲン

Parking Day 2019 渋谷宮益坂

Vancouver Biennale

SOU JR総持寺駅アートプロジェクト

なんば広場改造計画

いこまマルシェ・こま市 → good neighbors

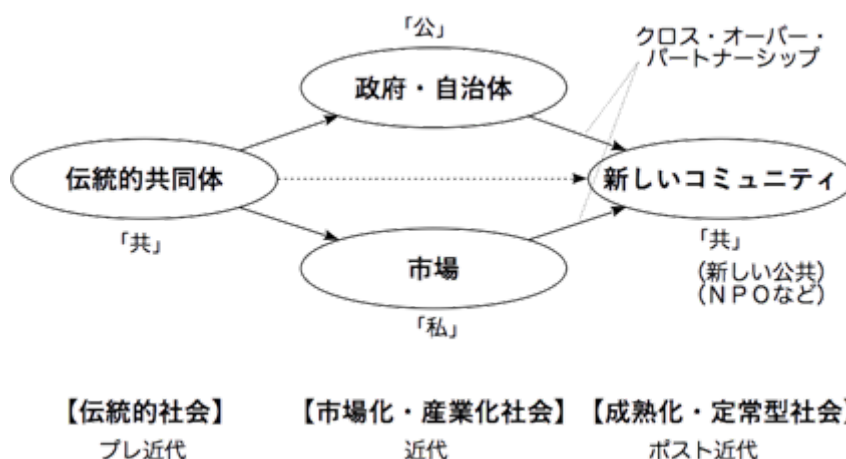
公園にいこーえん

#### 5 新しい公共

新しい公共(New Public)とは、公共サービスを市民自身やNPOが主体となり提供する社会、現象、または考え方。 Wikipedia

鷲田清一『しんがりの思想』

日本社会は明治以降、近代化の過程で、行政、医療、福祉、教育、流通など地域社会における相互支援の活動を、国家や企業が公共的なサービスとして引き取り、市民はそのサービスを税金やサービス料と引き替えに消費するという仕組みに変えていった。



そのことでこの国は世界でも屈指の速さで長寿化をなしとげたし、停電も、電車の遅れ、郵便の遅配もめったになく、深夜にも一人歩きができるような安全な街というふうに、都市生活の高いクオリティを実現した。が、それと並行して進行したのが、市民たちの相互支援のネットワークが張られる場たるコミュニティ、たとえば町内、氏子・檀家、組合、会社などによる福祉・厚生活動の痩せ細りである。ひとびとは、提供されるサービス・システムにぶら下がるばかりで、じぶんたちで力を合わせてそれを担う力量を急速に失っていった。いいかえると、これらのサービス・システムが劣化したり機能停止したときに、対策も出せねば課題そのものを引き取ることもできずに、クレームつけるだけの、そういう受動的で無力な存在に、いつしかなくなってしまっていた。

ひとびとが生き存えるためにどうしてもしなければならないこと、たとえば出産の助け、食材の調達、排泄物の処理、病や傷の手当て、看護や介護、看取りや清拭や埋葬といったいとなみをひとびとはどれだけじぶんたちの手でできるだろうか。ほぼすべてできないし、したこともないのではないか。生き存えるためにひとがどうしてもしなければならないこと、けっして免除されることのないこと、つまりは『いのちの世話』の能力をわたしたちはほぼすべて失っている。それは地域社会のだれかがやってくれるからではなく、わたしたちが税金やサービス料を払って、これらをことごとく行政サービスやサービス・ビジネスに委託してきたからだ。行き存えるために欠くことができない仕事を、じぶんではしなくなった

わたしたちの生活が行き届いたサービス・システムの恩恵をこうむるなかで、「主」たる市民が「顧客」という受け身で無能力な存在に成り下がっている

## 6 ネットワーク社会への対応

	階層組織型	ネットワーク型
構成員の関係性	上下関係	水平関係
意思決定	上層部で決定	みんなで考える(意思決定がないときも)
活動形態	指示・命令で一丸となって動く	自発的に、できること／やりたいことを行う
	やらねばならないことを使命感で	やりたいことを楽しむ
秩序形成	管理	自律
核となる人	リーダー	ファシリテーター

三田市・高平郷づくり協議会 里カフェ部会

宝塚市『まちづくり協議会ガイドライン』

- ①参加したいと思った時、参加の意思表示ができる方法がありますか？
- ②会議の場づくりを心がけ、それぞれの立場や違いを認め、誰もが活発に発言できる気持ちの良い話し合いができていますか？

ネットワーク型活動：ビジョンの共有＝この指とまれ ←→ 組織

## 7 管理と自律

近代：管理

ポスト近代：自律

近代の教育 ⇨ よりよい工場労働者をつくる・よりよい兵隊をつくる

ポスト近代の教育 ⇨ 自律できる人間をつくる

学習指導要領の改訂

自律を大切にするオランダの教育

千代田区立麴町中学校の取り組み

武藤北斗『生きる職場 小さなエビ工場の人を縛らない働き方』

自律 ⇔ 信頼

『町内会は義務ですか』

『PTA、やらないきゃダメですか』

## 8 都市計画の変化

小林重敬(2008)『都市計画はどう変わるか』

我国では、20世紀末から21世紀にかけて都市のあり方が大きく変化しており、都市計画も対応を促されている。このような状況は、19世紀末から20世紀初頭にかけて、近世都市から近代都市への変化に対応して、近代都市計画の仕組みが成立していった状況と似ている。

近代都市計画が直面した都市の構造転換とは、一言でいえば「都市化」である。都市への人口集中に伴い、市街地が拡大していった。新規に形成される市街地を、新たな開発方式によって、新たに台頭してきた新中間階層、日本でいえばサラリーマン階層の要求を満たす市街地を秩序をもって形成してゆくことが、近代都市計画の課題であった。

21世紀特有の新しい「生き方」を見つけること、そのことによって21世紀を支える新しい社会階層によって支持される都市計画の仕組みになると考える。

サラリーマンという働き方 → 雇われない働き方

D. Pink (2002) "Free Agent Nation: The Future of Working for Yourself"  
『フリーエージェント社会の到来 「雇われない生き方」は何を変えるか』

島根県・海士町 (株)風と土と  
社会起業家: 社会問題の解決を仕事にする

## 9 第3の波

A. トフラー “The Third Wave” 『第3の波』 (1980)

### (1) 第1の波

農業革命

必要なモノを自ら生産する          生産＝消費

### (2) 第2の波

産業革命

生産と消費の分離、あいだを市場がつなぐ

都心業務地＝生産の場 ←(通勤)→ 郊外住宅地＝消費の場

### (3) 第3の波

情報革命

生産と消費の融合

生産＝消費者(prosumer) ← 生産者 (producer) + 消費者 (consumer)